

2024 年度名古屋学芸大学健康・栄養研究所 研究・実践報告

■研究・実践の課題（テーマ）

瀬戸保健所主催「食の安心安全タウンミーティング」共催

■主任研究者 岸本満

■共同研究者

■研究・実践の目的、方法、結果、考察や提案等の概要

食の安全・安心タウンミーティング（以下「タウンミーティング」）は、地域に密着した食品事業者と地域住民及び行政機関が食の安全・安心について意見交換することにより、食の安全に関する情報を共有し、相互理解を深めて食の安全・安心確保のための方策を意見交換し、県の施策に反映させるというもので、保健所が管内の地域住民対象に実施する。本タウンミーティングは、2016 年度とコロナ過で中止となった 2020 年度、そして 2022 年度を除き 2012 年度以降 8 回、瀬戸保健所と名古屋学芸大学健康・栄養研究所の共催で開催し、2024 年度は 10 回目となる。

実施日時：2024 年 9 月 10 日（火）午後 1 時から午後 4 時まで

会 場：名古屋学芸大学 5 号館 5 2 1 号室

参加募集対象者：学生、市民、食品等事業者ほか

参加者募集：

- ①瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市及び東郷町の広報に参加者募集記事の掲載を依頼。
- ②会場がある日進市を中心にポスター等で周知。
- ③名古屋学芸大学等の学生に周知。
- ④瀬戸保健所のホームページで周知。

実施内容：①テーマ：災害時における食の安全・安心

②講演 1：災害時、より安全に食支援するうえで必要なこと

神戸学院大学 栄養学部栄養学科 講師 伊藤 智氏

③講演 2：「災害時における食の提供・継続」

富士産業株式会社栄養管理本部 今井 幸子氏

同 危機管理部 西村 友裕氏

④意見交換会：学生、市民、食品等事業者及び保健所職員が参加して意見交換。

（コーディネーター；名古屋学芸大学管理栄養学部教授 岸本 満 氏）

⑤事業評価：参加者に次の事項を含んだアンケートを実施した。

- 1) 年齢、性別、職業
- 2) 食の安全・安心タウンミーティングの開催をどのように知ったか
- 3) 関係者の理解が深まったと思われる度合い

- 4) 参加して役立った、役立つと思われた事項
- 5) 今後、取り上げて欲しい内容
- 6) 行政（瀬戸保健所）に対する要望事項
- 7) その他

実施結果：参加申し込み 86 名（うち学生 74 名）、会場出席者 78 名

参加者アンケート結果（抜粋）：回答者：78 名（回収率 100.0%）

①食の安全・安心タウンミーティング事業をどのようにして知りましたか。

学校からの情報	74 人	市町の広報を見て	1 人
その他	3 人		

②タウンミーティングに参加して、参加関係者間の相互理解が深まりましたか。

たいへん深まった	64 人	ある程度深まった	14 人
----------	------	----------	------

③タウンミーティングに参加して、役だったことがありますか。

< 1 > 災害現場

- ☐ 災害時の食の提供（3 名）
- ☐ 災害時の食について現時点での問題と対策について知ることが出来た。
- ☐ 災害時に、どのようなことができず、食関係でどういったことができるか（個人も含む、できること）
- ☐ 災害時の炊き出しの様子を詳しく知ることができた。
- ☐ 炊き出しをする際には様々なルール、ポイントがあることが分かった。（2 名）
- ☐ 炊き出しでのおにぎりによる食中毒の発生が多いことを知った。
- ☐ 災害時の食中毒の事例を実際に知ること、どのような点に気をつければよいか分かった。
- ☐ 災害時の衛生管理の重要性（5 名）
- ☐ 災害時、どのようなことが起こって、どのように対応すればよいか。
- ☐ 衛生管理の詳細や被災地の実態を具体的に知ることができました。（3 名）
- ☐ 食の安全、災害時の食料品の備蓄
- ☐ 災害時でも食の提供を続けたり、食中毒にならないようにするためにしていることについてよく学ぶことができました。
- ☐ 食支援をする際、食中毒の注意をすること。（3 名）
- ☐ 災害時の対応について知れたこと。
- ☐ 実際の状況を身に染みて感じる事ができた。
- ☐ 災害時という異常時にどのようなトラブルがあるのか、どうしたら良いのか知れた。
- ☐ 災害時のボランティアや支援時の対策や知識の重要さと実際にどう行動するべきなのかを認識できた。
- ☐ 災害時は、ライフラインが途絶えたり、平常時とは異なり、混乱が生じたりするので、食を提供することは大切でだが、食中毒が起きないように衛生管理を徹底することが

重要だと分かった。

- 災害時のボランティア活動
- ボランティア活動など、実際の現場を見た視点を知り、どんな事をしたのか、どう役立ったのか知れたこと。
- B C P（事業継続計画）
- B C Pについてとても詳しく説明があり、災害の被災者になったときのことは、とても参考になった。
- 現場のニーズの把握の重要性
- 実際に現場で支援活動を行っている企業の支援内容や現場での問題などは、あまり知る機会がなかったので、今回話をきくことでより理解が深まった。
- 食の安全・安心を得るための取り組み
- 実際に災害が発生した時に柔軟な対応力が重要であると知ることができた。

< 2 > 災害への備え

- 災害に対する考えが深まった。
- 常日頃から災害に対する知識や物資の備蓄をしておくことが大切だと再確認できた。
- 今後自分が災害にあった時にどうすべきか（ボランティアを含め）
- 災害時での食品衛生や備蓄の管理、対策等を知ることで緊急時に対応出来るよう意識が高まった。
- 災害への備えの重要性（7名）
- 備蓄を見直すきっかけとなった。（4名）
- 災害時に安全に食を確保するために備蓄しておくべきものなどが分かりました。（2名）
- 災害時にどのような状況になるかをイメージできたため、今のうちに準備する大切さを学ぶことができた。
- 災害への意識を高めることができ、災害に備えて準備しておく物や確認しておくべき事を知ることができた。
- 災害時の裏側を知ることができて、震災準備に活かれます。
- 災害時、日頃のシミュレーションや想像が大切だと分かった。

< 3 > その他

- 緊急時には、周りのことが見えなくなったり、普通が普通でなくなってしまうことが理解できた。
- 災害時の状況を情報収集する機会があっても、食という角度から物事をみることでできなかったため、今回のような機会があったことがよかった。
- 大きな災害を経験したことがないため体験談などを通してより身近なものとなった。
- 災害時には、情報収集など、まず現地の状況を知ることが重要だと分かった。また、3日間は、現地の力で過ごさなければならないため、準備をしておこうと思う。
- 様々な立場の方の意見が伺えて、非常に学びになった。（2名）

- ☐ 普段聞けないお話を聞けて良かった。我々も災害時にできることを考えるきっかけとなった。
 - ☐ 保健所などの公的な面、富士産業様の民間的な面を知ることができた。
 - ☐ 災害支援のボランティアとしての支援の仕方と、会社としての支援の仕方、どちらも知ることができ、今後の参考になった。
 - ☐ 災害時の企業としての心構えを考える機会になった。
 - ☐ 災害食BOOKを活用したいと思います。（2名）
 - ☐ ウエットティッシュやアルコール消毒の中でも、より良いものがどれか知ることができた。（2名）
 - ☐ 今までに勉強したことの復習や、新しい知識の習得ができた。
 - ☐ 私たち栄養学生だからできる衛生食品対応
 - ☐ 医療に携わる者としての責任を感じた。
 - ☐ 南海トラフ時などに応用したいと思った。
 - ☐ 発災時の適切な対応をとれるように意識する。
- ④今後タウンミーティングで取り上げてほしいと思うテーマはありますか。

（複数回答あり）

最近の食中毒事故の傾向	15 人	輸入食品の安全対策	15 人
食品添加物や農薬の健康リスク	24 人	食物アレルギー	34 人
その他（※）	4 人	無回答	4 人

※その他の内容

- ・ 災害時における御近所との連携
- ・ 炊き出し、ケガ、非常食品の取り扱い（食品の種類が多すぎて、どれが一番よいのか分からない）
- ・ 日本特有の食中毒発生状況・内容など

⑤食品衛生行政に期待することは何ですか。

< 1 > 発災時の対応

- ・ 災害現場での対応(2 名)
- ・ 衛生的な環境の維持（2 名）
- ・ 食中毒、感染症の予防・被害縮小（3 名）
- ・ 災害時の安全・安心の食の提供（6 名）
- ・ 食べ物の支援物資ルートの早急な確保。
- ・ 食品の温度管理
- ・ アレルギーの方や病気の方など食事に配慮がいる方への食事提供の確保
- ・ 行政が民間よりも早く現場に着き、対応できるようになること。（3 名）
- ・ 緊急（災害）時でも分かりやすい衛生管理マニュアルの作成（2 名）

< 2 > 情報発信

- ・ 食品衛生に関する情報発信の強化（24 名）
 （取り扱い内容 身近な食品衛生（家庭や集まり等）、食中毒の対策、災害時の食の安全・安心、
 食品衛生法、ライフハック、周知方法 講義、広報誌等の掲載）
- ・ 日頃より地域お食料システムと情報システムを把握し、公表
- ・ 災害支援をする職員への食品衛生の知識を強化
- ・ 保健所が身近に感じられるように業務内容等の発信

<3>その他

- ・ 安全に食することができることや美味しさ→迅速に（こうなるとうれしいと思いました）

⑥その他の意見

<1>感想

- ・ とても有意義で、貴重な時間を過ごすことができました。また、参加したく思います。
- ・ 初めて講演に参加して、大変勉強になりました。また機会があればぜひ参加したいです。
- ・ 昨年度も参加しましたが、今年度も非常に勉強になりました。先を見すえた行動を意識したいと思います。
- ・ 災害時の食に関することについて知識を深められてとても興味深かったです。参加して良かったと思います。
- ・ 災害について知らない事が多かったので、能登地震など、詳しく知れてよかったです。
- ・ 大規模災害については、テレビやネットニュースでしか知ることができなかったので、今回、写真や現地の方とのやりとりも知ることができ、とても良かったです。
- ・ 実際に災害の場所へ行った方のお話を聞くことができ、貴重な意見をきくことができ、参加して良かったと思います。
- ・ 災害対応について、実体験をもとに話を伺うことができ、大変参考になりました。食に関する企業の一員として、今日学んだことを実際の業務にも生かしていきたいと思います。ありがとうございます。
- ・ 今回のお話を通してボランティアなど現地へ行った経験のある方のお話は、とても参考になりました。たくさんの写真を見て、とても分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ・ 被災地での裏側の状況は、あまりメディアでは見るのが無かったので、貴重なお話が聞けました。被災地ボランティアには参加したいと思っていましたが、ルールが、しっかりあったことに感動しました。手助けに来て、被害を起こさないよう、一般のボランティアも安心して活動できる環境であるということに感心しました。

- ・災害支援の際には、必要な物を必要な物だけ使用することにより、双方とも無理をすることなく、冷静な判断を行うことが大切だと感じた。
- ・災害時の食の安全について、さまざまな話が聞けて、とても参考になりました。
- ・意見交換の際にトラックに災害支援というシールを貼るとすぐ通してもらえると聞いて、逆に止められることがあるのだと知って驚いた。実際に企業での支援内容や流れ、マニュアルを知ることができて、より災害支援の理解が深まった。
- ・災害対応について、実体験をもとに話を伺うことができ、大変参考になりました。食に関する企業の一員として、今日学んだことを実際の業務にも生かしていきたいと思います。ありがとうございます。
- ・災害というイレギュラーな状況になっても、食事を提供できるように民間企業やボランティアの方たちが活動しているということを知らなかったのも、とても驚きました。また、実際の被災の光景を目にして、自分の中で考えが少し変わったのを感じました。本日は、貴重なお話をしてくださりありがとうございました。
- ・実際に働いているプロの方々からお話をきけてとてもよい学びになりました。
- ・食に関する支援はもちろん、ボランティアや企業としての心得、支援の仕方を知ることができ、とても勉強になりました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・どんな時でも食の安全・安心を使命感に持って取り組んでいる姿を学ばせていただきました。
- ・富士産業株式会社は、被災した当日から事業継続のための計画を立てていて凄いなと思いました。あと、売り切れですと言わないために食数を増やしたり、食器がなくなっても工夫して利用していて驚きました。家の備蓄を見直したいと思います。
- ・災害時において大変なこと、困ったことなど貴重なお話を聞くことができました。私たちの助けたいという思いはそのままやりたいことにつなげられる訳ではないことを学びました。
- ・能登半島地震の被災状況の写真を拝見して、その凄惨さに驚きました。先生方の言葉の中で、「自分が良かれと思って行ったことが被災者にとっては、迷惑になることもある」というのが
- ・印象に残りました。
- ・良かれと思って多ければ良いと思って行動することが必ずしも良いとは限らないという気づき。
- ・実際に体験された中でのお話なので、腑に落ちる点が多々あり本当に良かった。ボランティアとは？を考えることができました。
- ・助ける側にも多様性があり、様々な方をまとめるのは大変そうです。
- ・被災地も大変であるが、支援する側も色々なことに気を付けなければいけないので大変だということが分かった。被災地でも食中毒が起きていたことは知らなか

ったので驚いた。

- ・今回のタウンミーティングを通して、改めて、災害時にどんな対策が必要なのかを知ることが出来ました。また、備蓄の大切さを食品衛生や被災地の写真等を見て感じました。そして、炊き出しにおける注意点やボランティアを行うにあたっての注意についても知る貴重な機会となりました。自分の周りにも食物アレルギーがある方がいるのでアレルギー対応についても聞くことができてよかったです。
- ・今回のタウンミーティングで、災害時の皆さんの動きを学ぶことができました。食料業者も被災していたり、施設自体が被害を受けている状況の中で、アレルギーや宗教上の問題も関わってくるなんて、とても対応が難しいが、そのおかげで救われている人たちがいるのだと分かりました。基本的な食中毒対策はいつも変わらないと思うので、今のうちからしっかり学んでおきたいと思いました。
- ・緊急で食品を届ける中で、ただ届けるだけでなく、衛生面に気をつけないと食中毒やノロウイルスなどが発生してしまうことがあるので、提供までに考えることが多いと思った。
- ・地震についてのボランティアや炊き出しについての実際のお話が聞けてよかったです。貴重なお話ありがとうございました。
- ・炊き出しのルールで水禁止であることを知ることができた。
- ・今回、災害時において知識や備蓄が大切だと改めて感じました。このような講義があると、今のうちに準備しようと意識することができるので今後も行ってほしいです。
- ・備蓄をしようと思いました。
- ・備蓄食料の大切さが分かった。
- ・災害が起こると、食糧は絶対に不足するし、水も使えなくなってしまうと生活にとっても困ってしまつてストレスになると思うから、「まあいいや」という考えはやめて、いつ地震がくるか分からないので、水や食糧を備蓄していきたいと思いました。
- ・前々からの災害対策の大切さを知れました。また、冷静な対応を行うことが、災害時の食の安全・安心を守るために必要だと感じました。
- ・日頃からのシミュレーションの大切さを学んだ。
- ・南海トラフに危機感が高まっているため、今回受けたことを意識したいと思いました。
- ・災害時の食品衛生について詳しく知ることが出来ました。被災地での実状を知ることができ、これからの対策なども知ることが出来てとても良い時間になりました。
- ・初めてタウンミーティングに参加して、得るものがたくさんあった。被災地の写真や話を通して、自分にもできることは色々あるなと思った。資料に目を通して、南海トラフなどの災害に備えたり、家族と今日の話題を共有したいと思った。

- ・いつ起こるか分からない災害はとても怖いけれど、食事など、備えることで、少しでもそのような気持ちを軽減できるようにしたいと思った。
- ・食品衛生管理における知識が習得できた。
- ・大きな災害に被災したことがなく、支援物資難に陥った経験はありませんが、食事提供を継続させるために行動を起こすことはもちろん食べ物の輸送方法などは通常とは異なることが多いため、食中毒を起こさせないようにさらに注意が必要であると理解できました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・国民全員が正しい知識を持つことで、回避できる事例も多くあるように感じた。このような活動が広まり、多くの人が、正しい知識を得られるようにしたい。
- ・災害時に限らず、さまざまな菌の繁殖を防ぐのにお弁当などを普段つくる主婦、女性などが混じっていれば、気づくことができたのではないかと感じました。
- ・8月に起きた災害に引き続き、他人事にはいけないことだと改めて実感しました。私は、健康に気を使った方やアレルギーの方中心向けの店のアルバイトをしていますが、そのような方たちが、災害に遭われたときに不安にならないような対応も栄養学生として支援してみたいと思いました。
- ・今回の講義で発災時のとるべき行動を学ぶことができました。学んだ知識は、頭に入れるだけでなく、実際に体験するとより理解が深まると思いました。今後、ボランティアを通じて食の安全の重要性や活用法を知っていきたいです。
- ・災害が起きた時や非常時に正しい判断・行動ができるように事前に知識を身に付けておきたいと思いました。

＜2＞疑問点

- ・災害時は、病院での食事提供で疾患ごとに食事内容が変わってくると思いますが、備蓄食品では対応できているのか、気になりました。
- ・ボランティアに行った後の二次災害についてどのような対策をとっているのか。

(以上)